

令和3年度 小論文A

出題のねらい

本問題の出典である、土井隆義『キャラ化する／される子どもたち―排除型社会における新たな人間像』（岩波書店、二〇〇九年）で、筆者は、普遍的な物差しよりも多様性を賞揚する社会では、個々の場面で具体的な承認を周囲の身近な人間から受けることによって評価される「人間関係の拘束力の強まり」が、現代の子どもたちの生きづらさとなっているとして、表面的な「外キャラ」を演じる「フラット化した交友関係」の閉塞感の問題について指摘している。特に、出題文においては、規範の拘束力が強かった時代と多様性を賞揚する時代の子どものありようを対照的に取りあげながら、それぞれの時代に生じる「生きづらさ」の内実について論じられており、個々人の子どもの個性の伸長および良好な人間関係の醸成に携わる教員をめざす本学の受験生にとって有益な文章と考える。

問1および問2は、解答者の基礎的な読解力、要約力、表現力を問うものである。問3は、筆者の問題提起の内容を踏まえて、それを改善する教育実践を論述させることにより、解答者の読解力、要約力、表現力に加えて、思考力、創造力を問うものである。